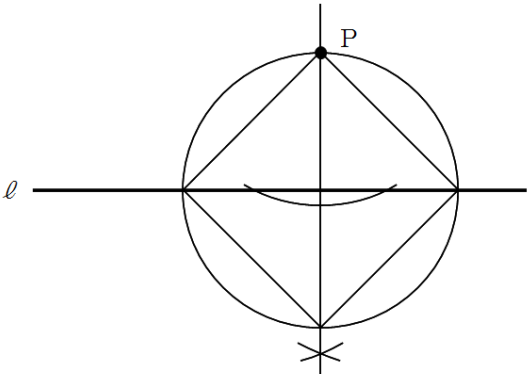


問題番号 配点	正 答 例	採点のポイント
<p>① 〔問 9〕 配点 6 点</p>		<p>○基本的な作図の方法を用いて、点 P を通り、直線 l と垂直な直線を引き、その垂線と直線 l との交点を求めることができています。</p> <p>○正方形の性質を理解し、全ての頂点が正確に示されている。</p>
<p>② 〔問 2〕 配点 7 点</p>	<p>左上の数について、かけられる数が a , かける数が b であることから、 左上の数は ab となる。</p> <p>また、右上の数は $a \{b+(n-1)\}$, 左下の数は $b \{a+(n-1)\}$, 右下の数は $\{a+(n-1)\} \{b+(n-1)\}$ と表すことができる。</p> <p>$n-1=N$とおくと、</p> $P-Q = \{ab+(a+N)(b+N)\} \\ - \{a(b+N)+b(a+N)\} \\ = (ab+ab+aN+bN+N^2) \\ - (ab+aN+ab+bN) \\ = ab+ab+aN+bN+N^2 \\ - ab-aN-ab-bN \\ = N^2$ <p>$N=n-1$だから、</p> $P-Q = (n-1)^2$	<p>○正方形の枠を用いて囲んだ n^2 個の数の四すみの数が、それぞれ文字を用いた式で適切に表されている。</p> <p>○式の変形ができ、適切に処理されている。</p> <p>○左上の数と右下の数の和である P と、右上の数と左下の数の和である Q について、$P-Q=(n-1)^2$ が成り立つことが的確に示されている。</p>
<p>④ 〔問 2〕 ① 配点 7 点</p>	<p>$\triangle AQR$ と $\triangle CQP$ において、 対頂角は等しいから、 $\angle AQR = \angle CQP \dots\dots (1)$</p> <p>仮定から、$AS \parallel PC$ 平行線の錯角は等しいから、 $\angle ARQ = \angle CPQ \dots\dots (2)$</p> <p>(1), (2) より、2 組の角がそれぞれ等しいから、 $\triangle AQR \sim \triangle CQP$</p>	<p>○正しいと認められる事柄について、根拠を明確にして記述し、仮定から結論を導く推論の過程が的確に示されている。</p>

各学校において、採点のポイントを踏まえて『部分点の基準』を作成し、『部分点の基準ごとの点数』を定めること。

なお、受検者の実態等に応じて、次の例のように詳細な基準を定めることができる。

- ・ 「○○について××が書かれている。」のように、具体的な内容を加えること。
- ・ 「○○と△△が書かれている。(3点)」「○○が書かれている。(2点)」「△△が書かれている。(1点)」のように、段階を設け、段階ごとの点数を設定すること。
- ・ 「誤字が一つ以上ある。(1点減点)」のように、部分点の基準を加えること。